

## 令和5年度地域福祉ワークショップ開催状況

### 1. 目的

参加者同士の自由な意見交換により課題解決に向けた方策を話し合うことで、地域住民の横のつながりを深めるとともに、住民が主体となって地域生活課題の解決に取り組む支えあいの地域づくりを推進することを目的に、令和2年度より地域福祉ワークショップ（地域福祉懇談会）を開催している。

### 2. 過去のアンケート結果や地域福祉専門部会委員の意見などから見えてきた課題

－令和4年度第2回地域福祉専門部会資料より－

- (1) 多様な担い手の参加に向けた開催形態の工夫
- (2) 参加者がワークショップ参加後の行動を振り返り、その結果等を共有するフォローアップの実施
- (3) 興味・関心の高いテーマの設定

### 3. 令和5年度開催状況

#### (1) 多様な担い手の参加に向けた開催形態の工夫

**「中学・高校生向け地域福祉ワークショップ～ボードゲームから考える！これからのまちづくり～」の開催**

#### ア. 趣旨

将来地域の担い手となるだろう中学・高校生の思いや意見を抽出及び共有することで、中学・高校生が地域づくりや福祉を「自分事（身近なもの）」として捉え、地域に対する愛着や関心を深めることを目的としたワークショップを開催した。

#### イ. 主催

中央区

#### ウ. 開催日

令和5年8月23日（水）14時～

#### エ. 会場

中央区役所別館 6階会議室

## オ. 参加者

2名

## カ. 共催・サポーター

中央区社会福祉協議会

## キ. 内容

- ミニ講義『中央区ってどんな地域？』
  - ・数字から見る中央区の変化について
  - ・他地域と比較した中央区の姿について
- グループワーク  
テーマ『ボードゲームから考える！これからのまちづくり』
  - ・協力型体験ゲーム「コミュニティコーピング」をプレイし、地域の課題解決に向けたヒントを学ぶ
  - ・ゲーム終了後、ゲームの内容を踏まえ意見交換を実施した

### <補足>コミュニティコーピングについて

コミュニティコーピングとは、「地域で孤立している人」に対し、身近にいる「力になってくれる人（社会資源）」を「つなぐ」ことで、社会的孤立状態の解消を体験できるゲームである。

ゲームに出てくる「地域で孤立している人」や「力になってくれる人」は、実際の事例をもとに作成されており、必要な人に必要な支援をつなぐことで、悩みを解消し社会から孤立を無くすことはできる大切さと気づきを得ることが、現実社会における社会的孤立の解消に向けたヒントとなると考えられている。

コミュニティコーピングホームページ <https://comcop.jp/>



## ク. 意見交換の要旨

### 質問①「ゲームの感想を教えてください」

- みんなで協力してゲームをすることができた。チームプレイに苦手意識を持っているが、今日はチームプレイができたと思う。
- 地域には色々な住民がいて、様々な悩みを抱えている。自分のつながりを活かし、解決することができたのでよかった。

質問②「印象に残った登場人物を教えてください」

- 地域福祉コーディネーター。何でも解決できてすごいと思った。
- 住民カード。悩みが解決すると今度はその人が地域に貢献可能な、つながりカードになるものもあり、力になってくれる人は近くにいるのだとわかった。→同じカードが印象に残った。悩みを解決することで、力になってくれる優しい人なんだろうと思った。

質問③「どうすれば地域は崩壊しなかったかと思いますか？」

- 処方するためのつながりがもっと必要だった。土地を広くすれば、課題を抱えた人であふれることも無いのではないか。
- 震災などにより住民カード（課題を抱えた人）が2倍になった。

質問④「ゲームと同じ結果にならないために自分ができること！」

- 交流会やイベントで、地域の人と距離を縮める。同じマンションの人と話をしてみる。困ってる人を見つけたら、ゲームのようにコピーングして家族のつながりに頼ってみる。
- 災害が起きてもあわてず、自分の身を守るために保存食を持ち、まずは一人一人が自分のことを守る。自分のことができるようになったら、他の人も助けて、助けあいをする。

## ケ. アンケート結果

問1「今回のワークショップを、どのように知りましたか」

- 学校で配布されたチラシ。
- 家族から聞いた。
- 塾で配布されたチラシ。

問2「今回のワークショップに参加した理由を教えてください」

- 前々から地域の事について学ぶきっかけを探していて、ちょうどチラシを見つけたので参加した。
- 最近中央区へと越してきたばかりで、あまり中央区の事について知らないの  
で、どんな地域か知りたくて参加した。「まちづくり」にも目が惹かれた。

問3 「地域福祉ワークショップに参加していかがでしたか」

- とてもよかった 2名

問4 「本日のワークショップで一番印象に残ったことは何ですか？」

- 一人一人、お金、住まい、健康、人間関係などの悩みを抱えていること。
- 最初は難しいことを考えるのかと思ったが、ゲームで楽しく理解することができた。

問5 「感想や気になったことなど、ご自由にお書きください」

- 楽しくて同時に勉強にもなってとってもいいワークショップでした。
- 地域の仕組み、色んな人が色んな相談事を持っていると知ったので、話を聞いてあげたいです。

コ. 当日の様子 (参考)



## (2) 参加者がワークショップ参加後の行動を振り返り、その結果等を共有するフォローアップの実施

### 「地域福祉ワークショップフォローアップ会」の開催

#### ア. 趣旨

これまでの地域福祉ワークショップ参加者を対象に、参加者同士のつながりを構築し、地域課題の共有・解決に向けたアイデアの意見交換等を通し、支えあいの地域づくりを後押しすることを目的としたフォローアップ会を開催した。

#### イ. 主催

中央区

#### ウ. 開催日

令和5年10月13日（金）18時30分～

#### エ. 会場

中央区役所8階大会議室

#### オ. 参加者

16名（参加対象者132名）

#### カ. 共催・サポーター

中央区社会福祉協議会

#### キ. 内容

○振り返り『地域福祉ワークショップの目的とこれまでの開催結果』

- ・地域福祉ワークショップの目的
- ・これまでのワークショップ開催結果、事前アンケートの結果について

○グループワーク

テーマ『楽しみながら考える！これからのまちづくりに向けて』

- ・振り返りの内容を踏まえ、5年後・10年後の地域の姿を想像した時、どのような地域を目指したいか、また目指したい地域の実現に向けて「楽しみながらやってみたいこと（つながるきっかけ）」は何か、意見交換を行った。

## ク. 意見交換の要旨

### 5年後10年後に目指したい地域の姿

- マンションの中のつながり、多世代が集まれる場所を作りたい。
- まちの意見を集約できる居場所ができると良い。それを企画・実行できる地域を目指したい。
- 古い慣習も活かしながら、新住民の意見も取り入れて、新しいまちの姿を目指したい。
- 区、社協、地域住民の壁を壊しお互いに意見を言い合える地域にしたい。
- みんなが楽しみ、長く住むことができる地域にしたい。
- 子ども、若者、高齢者等、年齢にとらわれず地域（町会活動やイベント等）に楽しく参加できるようにしたい。
- 昔からの価値観も大切にしながら、多様性の中で様々な価値観が認められる社会を目指したい。様々な価値観の中で、人口の変化に対応できる地域にしたい。
- みんなが楽しみながら生活できる地域にしたい。
- 企業活動、町会活動が盛んなので、地域の社会資源をうまくマッチングして、地域を盛り上げていきたい。
- キーワードは公園。坂本町公園、黎明橋公園が整備され、公園を活用したイベントが活発に行われている。公園を中心に古くから住んでいる人、新住民、在勤者がつながれるのではないかな。

### 楽しみながらやってみたいこと（つながるきっかけ）

- 子育て中の父母がプライベートな時間を持てる居場所を作りたい。
- 小規模マンションでの防災訓練、簡単なセミナーなどを楽しみながら行い、つながるきっかけを作れると良いのではないかな。
- 地域の拠点、居場所づくりを行いたい。活動場所は、空き家等探せば色々あるのではないかな。
- 現在、民生・児童委員が中心となり立ち上げた地域のサロンが盛況だが、それは参加している家族の意見が反映されているからだろう。子どもの居場所なら子どもの声、高齢者の集まる場所なら高齢者の声を聞き、にぎやかでつながりのある中央区を目指したい。
- 全てはあいさつから始まる。挨拶をきっかけに、楽しみながら地域づくりに取り組みたい。
- 2040年度の再開発完了、将来の地域を夢見て楽しみながら活動したい。
- 地域の公園を起点とした活動、女性が元気な地域を目指したい。

ケ. 当日の様子 (参考)

○グループ討議



○発表の様子



### (3) 興味・関心の高いテーマの設定

#### 「地域福祉ワークショップ 地域を“ちょっと”よくする！地域活動拠点の活用について」の開催

##### ア. 趣旨

参加者の横のつながりづくり、地域住民が主体となり地域生活課題に取り組む地域づくりを推進することを目的に、地域福祉ワークショップを開催する。

##### イ. 主催

中央区

##### ウ. 開催日

令和6年1月24日（水）18時30分～

##### エ. 会場

中央区役所8階大会議室

##### オ. 参加予定人数

25名（抽選）

##### カ. 講師・ファシリテーター

駒澤大学文学部社会学科 教授 川上 富雄 先生

##### キ. 共催・サポーター

中央区社会福祉協議会

##### ク. 内容

###### ○講演『中央区のいまとこれから』

- ・地域社会の変化、中央区の変化
- ・地域活動の意義と地域活動拠点の活用について

###### ○報告『区内の地域活動拠点について』

- ・勝どきダイルーム、多世代交流スペース「はまる一む」の実践報告

###### ○グループワーク

テーマ『地域を“ちょっと”よくする！地域活動拠点の活用について』

- ・地域で気になること（地域課題）を共有する。
- ・気になることの解決に向けて、地域活動拠点で自分たちにできること、「あったらいいな」と思う地域活動について、意見交換を行う。
- ・意見交換は4～6名の班ごとにわかれて行う。

###### ○全体共有（グループワークの結果を共有・講師総括）



#### ケ. 開催方法

地域、年代、所属も異なる者同士がつながるきっかけとなるよう、区全体で1回開催する。

#### コ. 対象者

地域活動者（町会・自治会、民生・児童委員、青少年委員、ボランティア団体等）、地域活動に興味・関心のある方。

#### サ. 参加者の募集

区のおしらせ（12/1号）、ホームページ、区 SNS で募集するほか、各団体宛てに周知を依頼する。

#### シ. その他

ワークショップの結果については報告書にまとめ、中央区における地域福祉の推進に活用していく。